Hi こちら 岩手大学
IWATE UNIVERSITY'S OFFICIAL NEWSLETTER
岩手大学広報誌
2024. August
Vol.54

CAMPUS LIFE
- Club Activities -
岩手大学クラブ活動紹介

01 馬術部 / Equestrian Club

歴史を継ぎ
馬と歩みます！

盛岡高等農林学校の時代から、
馬に恋して120年？
歴史ある馬術部を取材しました。

Q1. 馬術部はどんな団体ですか？

馬術部では、馬術競技会に向けて10頭の馬の世話と技術練習を行っています。基本的には毎朝5時半、月曜日は朝7時に集合して活動しています。部員は24名おり、新入部員のほぼ全員が未経験から馬術を始めています。

Q2. 動物と共に出場する競技の魅力はなんですか？

人間同士とは違ってコミュニケーションが取りづらいからこそ、通じ合えた時の喜びが大きいことですね。馬術は男女で分ける競技ではなく、その馬の能力を一番引き出せた人が勝つという競技の性格上、馬と息を合わせて練習を重ねていけば、誰にでもチャンスがあるところも馬術の魅力だと思います。

Q3. 大変なことはありますか？

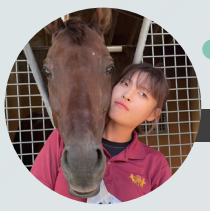
練習の他に馬の世話や環境整備を行わなければならないことです。休日には馬の糞からつくる堆肥をトラックに積んで自分たちで農家に届けに行くこともあります。こうした馬のお世話にはお金もかかり大変ですが、馬のためにアルバイトをするくらい、愛情をもって育てています。

Q4. 入部して良かったと思うのはどんなときですか？

大会に出場して、これまでの活動の成果が見えてきたと感じる時です。また、普段世話をしている馬が以前よりも心を許してくれるようになったとき、続けてきてよかったと思いました。自分の担当馬は特に気性の荒い馬で、最初の頃は噛まれたり蹴られたりということがありましたが、だんだんと信頼関係を築くことができ、やりがいを感じました。

Q5. 未来の新入部員に向けてメッセージをお願いします！

大変な面もありますが、可愛い馬たちと一番近くで関われるのは馬術部だけです！もし馬術部を離れたくなってもきっとすぐに馬が恋しくなってしまうはずです。色々なことをみんなで一緒に乗り越え、馬術部を楽しみましょう！



●馬術部では乾草・飼料の提供にご協力くださる方を募集中です！

取材に協力してくれた方

農学部　森林科学科　4年
浅沼　潔さん（岩手県立不来方高校出身）

02 卓球部 / Table Tennis Club

卓球で
地域と繋がる

運動部としての活躍にとどまらない!!
「地域と繋がり、地域に愛される」
卓球部を取材しました。

Q1. 卓球部はどんな団体ですか？

卓球部は約50人の部員がいます。毎日、都合のつく人たちで学年学科を問わず楽しく練習しています。様々な大会に積極的に参加していて、学生リーグでは上位の成績を収めています。

卓球は、考えることが多くて大変なスポーツなのですが、そこに卓球の奥深さがあります。ラバーの種類や指のかけ方1つでもプレーが変わってくるので、常に新しい発見があります。

Q2. 卓球部はNEXT STEP工房※1になぜ参加しようと思ったのですか？そこではどのような活動をされていますか？

地域にアプローチする取り組みを考えていた時に、NEXT STEP工房を知り、運動部でも何かできるのではと計画を立ててみたのが始まりです。当時、キャプテンとして、部員の参加率の低下と資金不足による用具不足に課題を感じていました。また、コロナの影響で人との繋がりも減っており、これらの課題を解決するために何かしたいという思いが強くありました。

そこで、卓球を軸に、地域活性化や多世代交流、健康増進という3つの柱で地域貢献活動を始めました。昨年は卓球に加え、卓球バレー※2の講習会や交流会を行いました。

実績がない中での広報活動や各団体との交渉は困難を極めましたが、変わっていくことが大事だと思い、色々な方に相談しながら解決していきました。進めていくと、地域の人と繋がる楽しさがポジティブな影響を次々ともたらし、それが次の新たなイベントへと繋がっていきました。いま振り返ってみると、あの時、一歩踏み出して本当に良かったと思っています。これまで協力してくださった皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

※1　地域で活動する学生を資金面で支援する岩手大学の仕組み
※2　椅子に座った1チーム6人が卓球ボールを転がしあう競技。年齢や障がいなどに関わらず楽しめる。

Q3. 今後の目標は何ですか？

東北学生リーグで男女ともにⅠ部になること、そして全国大会に出場することです。NEXT STEP工房の活動としては、他の団体とも交流を深めていき、より地域に愛されるチームにしていきたいです。

地域と繋がる活動が
地域協創教育
センターから高評価！

●昨年からSNS発信や地域貢献活動に力を入れ、活動の幅を広げる卓球部。自由で活発な部活動の中には、キャプテンの「人に愛される部活」になるという信念が見えてきます。

取材に協力してくれた方

教育学部　小学校教育コース　4年
田浦　充実さん（青森県立田名部高校出身）

サークル紹介ページ：
https://www.iwate-u.ac.jp/campus/activity/club.html

Turn the World into Your Classroom!

岩手大学には様々な国際交流プログラムがあり、令和５年度には158名もの学生が留学しました。ここでは、台湾とアメリカへの留学を経験された二人の学生の体験談を交えながら、岩手大学で体験することができる国際交流プログラムの魅力についてご紹介します。

人文社会科学部　４年
小山田　彩乃さん

驚きの連続！
何事にも代えられない経験でした。

From IWATE to TAIWAN

教育学部　４年
三浦　遥さん

背中を押されての挑戦！
毎日が映画のワンシーンのようでした。

From IWATE to U.S.A.

Interview（インタビュー）

以下、二人の敬称略

Q. 留学を意識したきっかけは？

小山田● 第二外国語の授業で中国語を学んだことと、岩大のグローバルビレッジのイベントに参加し、留学生とたくさん交流をしたことですね。多くの外国の方と交流する中で、より一層自分の視野を広げたい！ という想いが強くなり、1年間の交換留学を決意しました。

三浦● 私は高校生の頃からいつかは留学してみたい！ という想いがあったのですが、入学と同時にコロナ禍となってしまい、なかなか難しい状況になってしまって……。ようやく3年次にタイへの短期の教育実習インターンシップに参加する機会ができたのですが、将来英語の教員免許を取得するにあたって、もっと実践的な英語技能を習得したいという気持ちが強くなり、思い切って挑戦しました。

Q. 留学してみてどうでしたか？

台湾▶果物の露店販売

小山田● 日本で当たり前だと思っていたことが当たり前でないことがたくさんあって、それはもう驚きの連続でした。道路を走るバイクの数が四輪車よりも断然多いことや、ドリンクスタンドの種類・店舗数の多さ、街中で売っている野菜や果物など、どこを切り取っても印象的でした。トイレにペーパーを流せないことも驚きでしたね。また、現地に住んでいる外国の方と交流する機会も多くあって、様々な価値観に触れることができました。

三浦● イリノイ州にあるノースセントラルカレッジに約9か月間滞在しましたが、毎日が非日常的でした。大学の授業スタイルは、積極的に参加するアクティブなもので、急にグループでプレゼンをしたり、役になりきって演じてみたりと型にはまらない授業が多くて面白かったです。また、ハロウィンにかぼちゃ掘りをしたり、ダンスパーティーに参加したり、メキシカンやチャイニーズフードを食べてみたりと経験したことのないイベントに気軽に参加することができ、貴重な時間だったなと思います。イベントを通じて、大学教授や学生と談話することもあり、時に人種差別や、ジェンダー論など深いテーマについても、お話を聞くことができました。現地で幅広い年代・様々な背景を持つ人々と出会い、英語だけではなく、文化や価値観の違いについて学ぶことができました。実際にその地域で生活することで、より深く人々と地域の特色や慣習を理解し、新たな視点を得ることができました。

USA▶North Central College内広場

Q. 留学中の一番の思い出は？

台湾▶高雄の龍虎塔

小山田● 日本では見ることのできない建物や景色をたくさん見れたことですね。カラフルで豪華なお寺（廟）を見て、建物や文化の違いを肌で感じたり、また、日月潭・澎湖・小琉球など自然豊かで壮大な景色をたくさん見たりと、休みの日に旅行に出かけることがとても楽しかったです。

三浦● 小学校から続けていたバレーボールを通して、多くの友達ができたことです。週に2～4回キャンパス外の体育館で試合をしていました。知り合いを集めてチームを自由に組む形式でしたが、運よく誘ってもらえて加えてもらいました。他大学や高校生など、同じ大学以外の友達ができたことに自分でも驚きました。身長が2m近くある男の人がいて体格差に圧倒されましたね。彼らとは、地域の大会に出たり、休みの日にはシカゴ観光に行ったりなど、地元ならではの経験をすることができました。バレーボールの後にはハンバーガー屋さんやチキンテンダー屋さんに連れて行ってもらったこともいい思い出です。彼らとは今でも連絡を取りあう仲で、大好きなバレーボールを通してできた出会いに感謝しています。

USA▶バレーボール

Q. 最後に留学を考えている方へのメッセージをお願いします。

台湾▶小琉球

小山田● 留学に興味がある方は、是非グローバルビレッジのイベントに参加してみてください。留学生と日本語で交流できる「にほんごカフェ」や、中国語や中国文化を留学生と一緒に学ぶことができる「ニーハオ！漢語」など様々なイベントがあります。また、国際課の職員さんに留学について相談すると親身になって話を聴いてくれます。私は留学を通して語学力が向上しただけでなく、多くの方との交流や体験を通して視野が広がりました。留学の中で経験したことは何事にも代えられない貴重な出来事となりました。留学を考えている方はぜひ岩手大学に入学し、留学への一歩を踏み出してみてください！

三浦● 「一人で海外に行くのがこわい……」、「英語に自信がない……」。実は私もその一人でした。でも、先生や家族、友達、国際課の先生に「留学に行きたい！」と打ち明けるたびに、強い後押しを受け、「もう行くしかない！」というような気持ちになり、思い切って挑戦することができました。留学の仕方も選択肢もわからなかった私ですが、国際課の皆さんのおかげで自分に合ったプログラムに参加することができました。日本では味わうことのできない環境にドキドキワクワクし、毎日が映画のワンシーンなのではないかと錯覚するほど楽しかったですし、留学に行ったということに後悔は一つもありません！ 海外留学を考えているみなさん、ぜひ「行きたい！」という気持ちを大切にし、ぜひ岩手大学で挑戦してみてください。人生が180度変わる経験ができるかもしれません。

グローバルビレッジとは？

グローバルビレッジは、国籍の異なる様々な学生や地域の方が集い、国際交流、日本文化紹介、ワークショップ等のイベントを通して、国際理解・異文化体験をする空間です。グローバルビレッジからあなたの世界を広げてみませんか。高校生も参加できます！ グローバルビレッジは担当教員と学生スタッフがいますので、英語が苦手な人や初めて参加する人にも、安心してご参加していただけます。イベント等の情報をHP等でぜひご確認いただき、どうぞお気軽にご参加ください！

▲国際交流イベント

◀生け花教室

研究紹介

教育学部　社会科教育　講師　宮崎　嵩啓（みやざき・たかひろ）

研究と教育、二兎を追う

●研究テーマ

はじめまして、今年度より教育学部に参りました宮崎嵩啓（みやざきたかひろ）と申します。私が現在、教育学部で担当しているのは「社会科教育学（地理歴史教育分野）」と「歴史学（日本史学）」という領域です。平たく言えば教育学と歴史学ということになりますが、通常これらは別々の専門領域として認識されますので、「あなたの専門は？」と問われて上記をそのまま説明すると、時に怪訝（けげん）な表情をされます。

矛盾のないダブルメジャー

私はこの３月まで、石川県内の高校で地理歴史科の教員として勤務していました。

日本史概論の講義の様子。歴史学研究の最前線に迫ります。

担当科目は主に日本史です。高校で日本史の授業を実践しようと思ったとき、そこで必要となる「専門性」にはどのようなものがあるでしょうか。私の場合、それはまず何と言っても歴史上の出来事をきちんと知り、かつそれらの出来事をどう解釈すればよいかを考えられること、つまり「歴史学」の方法や理念をきちんと会得していることでした。しかし、これだけでは不十分です。目の前の生徒との関係のなかでどのような授業を構想するのか、あるいはそもそも学校で社会科を学ぶとはどういうことなのか、こうした問いに向き合うためには「社会科教育学」の方法や理念も必要になってきます。私にとって「社会科教育学」と「歴史学」は、高校で日本史の授業を持つうえでどちらも必須の、車の両輪のようなものでした。

今日、二兎を追う意味

私の研究テーマは「歴史教育の歴史的研究」です。かつて上原専禄という歴史学者は、戦前の日本では歴史学研究と歴史教育が「有機的な結合状態」を作れなかったとして、そのことが政治による歴史教育の利用を可能にしたと指摘しました（上原専禄「歴史研究と歴史教育」（『歴史学研究』167号、1954年））。真剣な（歴史）研究者であればあるほど、（歴史）教育は自身の問題ではないと忌避する傾向があったといいます。もう半世紀以上も前の論文ですが、今日読み返すだけの価値は十分にあると思います。率直に、現在、学校教育と学問研究を繋ぐ回路は大変脆く、ややもすれば途切れてしまいそうな危機的な状況にあるのではないかというのが私の見方です。「歴史教育の歴史的研究」は、戦後の歴史教育の展開を、歴史学をはじめとする学問研究との関係で跡付け、今日の状況を見定めようとする試みです。学問研究と学校教育を両睨みする、それは欲張りで総花的だとの批判もあるでしょうが、あえて二兎を追うことにも今日的意味があるような気がしています。

研究紹介

理工学部　化学・生命理工学科 化学コース　教授　竹口　竜弥（たけぐち・たつや）

2050年カーボンニュートラル：持続可能な社会を実現に不可欠な燃料電池で働く触媒の開発について

●研究テーマ

2020年10月、「2050年カーボンニュートラル」が宣言されました。それを受けて、経済産業省は、2021年6月に、「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」を発表しました。岩手大学も、環境保全・再生に向けた教育・研究を積極的に推進し、SDGs（持続可能な開発目標）を踏まえ、持続可能な社会の実現を目指しています。

水素燃料は、使用するときにCO_2を排出しないことから、カーボンニュートラル実現の鍵となるエネルギーとみなされています。水素社会の実現には、再生可能エネルギーを利用したクリーン水素の製造が、最重要であることはいうまでもありませんが、水素を効率よく利用するデバイスの開発が急務となっています。水素を用いたエネルギー変換デバイスの一つに、固体高分子形燃料電池があります。燃料電池の空気極での酸素還元反応は、反応速度が遅く、多量の白金触媒を必要とするため、高性能な触媒の開発が待たれています。

燃料電池自動車の広範な普及を目指し、大型・商用モビリティ、特に大型トラックなどのHeavy Duty Vehicle（HDV）への拡大

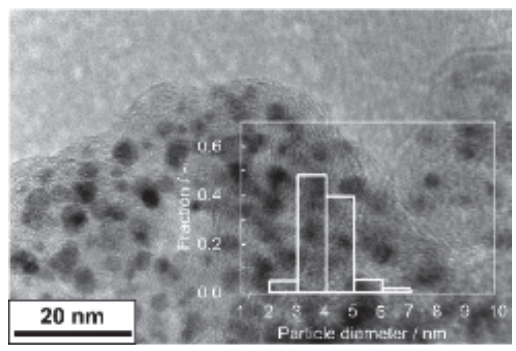


図　PtCo/C燃料電池酸素極触媒

が進められています。高出力を実現するために、空気極を高温で使用する必要があります。当研究室でも、高活性PtCo系ナノ粒子合金触媒の開発と耐久性向上に努めています。自動車の起動停止時には炭素の腐食が進行することから、岩手大学・弘前大学合同チームはTi_4O_7と炭素のコンポジット材料を開発しました［M. Chisaka *et al.*, *Chem. Comm.* 2021, *57*, 12772］。172 m^2/gの高い比表面積、空気極触媒としても十分に機能し世界最高レベルの性能と負荷応答耐性が得られ、県内企業との商品化を進めています。また、難燃性のメソポーラスカーボンを担体に担持したPtCo系ナノ粒子合金触媒の開発を進め、HDVに必要な高出力条件での高効率化を進めています。

水素社会実現のためには、燃料電池だけでなく、二次電池を開発する必要があり、「いわて」の役割を考えています。鉄については、釜石市橋野町の「橋野鉄鉱山」を含む「明治日本の産業革命遺産」が2015年7月5日に世界遺産への登録が決定されました。「いわて」の鉄の技術を生かした形で、鉄・空気二次電池の開発も進めており、燃料電池・二次電池の開発で、水素社会を目指しています。

釜石市　鉄の歴史館

センパイ紹介
Alumni Interview

PROFILE

岩手県庁勤務

太田（おおた）　眞之介（しんのすけ）さん

平成 29 年 3 月　人文社会科学部
環境科学課程（現：地域政策課程）卒業

Q❶ 印象に残っている学生時代の思い出を教えてください。

学問領域では、興味・関心のある講義を惜しみなく受講したことや、環境社会学ゼミに所属し、各種環境問題を取り巻く社会制度について、先生やゼミ生と一緒に楽しく分析し、課題を議論したことです。

課外活動では、一般社団法人と連携し、ラフティングなどの活動を通じて、北上川流域を中心とした環境保全やまちづくりについて、楽しみながら考えるサークルを立ち上げたことです。

Q❷ 現在の仕事を選んだきっかけは何ですか？

在学時から、仕事を通じて地元に貢献したいという思いを漠然と抱いていた中で、研究やサークル活動を通じて、当たり前のように感じていた「生活」と「自然」の調和が岩手県の大きな魅力であることを再認識し、基盤となる行政サービスの持続可能性に貢献したいと考えたことが主なきっかけです。

Q❸ 仕事のやりがいや今後の目標を教えてください。

入庁から８年目になりますが、実務では、これまで台風災害の復旧事業（用地補償）及び福祉政策（障がい児支援）を主に担当しました。今年度からは、市町村分の普通交付税の算定や財政運営に関する助言の事務を担当しています。業務を通じて、県内市町村の行財政運営の特徴や課題・将来見通しなどを俯瞰して分析できることは、県職員としてやりがいを感じます。

また、昨年度は県の研修制度により、都内の公共政策大学院で１年間様々な学問領域を学び、課題分析や政策形成の手法を身につけました。今後は、培った知見を実務に還元し、よりよい県政運営に貢献することが目標です。ちなみに、県庁内では、若手職員の自発的な政策形成等に関する活動を支援する取組も行っており、新しいアイデアを取り入れていこうという姿勢があります。

Q❹ 岩大生へメッセージをお願いします！

大学生活の過ごし方は人それぞれですが、興味や関心事を様々な形で実現できる期間です。教職員や友人、先輩・後輩に相談するのもよし、一人で何かを究めるのもよしです。岩手大学は地域密着型の大学であるため、学生生活における取組が、地域にどう影響するか、という肌感覚が得やすい点も、首都圏の大学にはない強みであると思います。

学生生活を通じて岩手県に興味を持った皆さん、様々なキャリアを通じて、一緒に岩手県を盛り上げましょう！

そして、岩手県に魅力を感じて貢献していきたい方、ぜひ一緒に働きましょう！

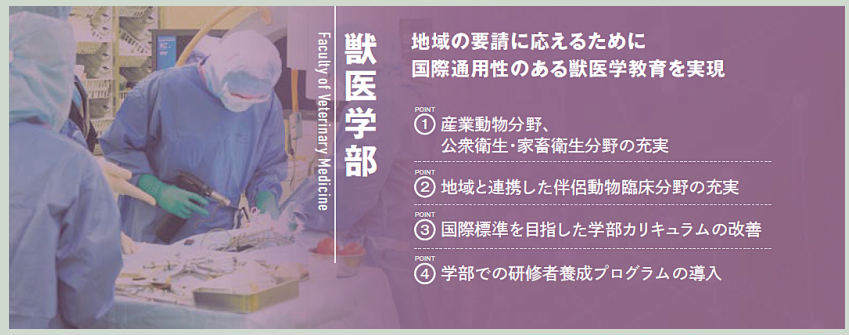
TOPICS トピックス

2025年4月 獣医学部を新設し、新たな学部編成となります
IWATE UNIVERSITY Reorganization 2025

岩手大学では、2025年４月、獣医学部の新設、そして理工学部、農学部の再編を行うこととなりました。新設される獣医学部では地域の要請に応えることが可能な国際通用性のある獣医学教育を実現し、産業動物及び伴侶動物獣医学、家畜衛生などの獣医に関する諸課題に対応可能な人材を育成します。

岩手大学はこれからも卒業生である宮沢賢治の想い「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」（Well-being）を受け継ぎ、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現のため、予測不能な時代を切り拓き、力強く生きる力を持ったレジリエントな人づくりを目指していきます。

学部改組・獣医学部新設の詳細については岩手大学HPをご確認ください。



岩手大学 創立80周年記念サイトが公開となりました！

岩手大学は2029（令和11）年に創立80周年を迎えます。このひとつの節目を迎えるにあたり、岩手大学では未来を創る８つの記念プロジェクト、記念イベントの開催など、様々な事業を展開していきます。地域の皆様、そして全国、あるいは世界でご活躍されている卒業生、関係者の皆様とこれまで以上に強いつながりを構築できるように情報を発信してまいりますので、ぜひ、ご確認ください。

記念サイトはこちら！≫

80周年を記念するロゴマーク

岩手大学の学章から桐の花の一部を用いて、過去、現在、そして未来へと時代の輪をつないでいくイメージを表現しています。

80th ANNIVERSARY IWATE UNIVERSITY

Information

岩手大学公式ソーシャルメディア

岩手大学ではさまざまな情報をソーシャルメディアで発信しています。ぜひチェックしてください。

岩手大学公式X
@Iwate_Univ_PR

小川学長X
@iwateu_gakucho

岩手大学公式
YouTubeチャンネル

岩手大学のソーシャルメディア
アカウント一覧

プッシュ通知で岩手大学の最新情報を逃さずキャッチ！

岩手大学のイベントや受験生向けのお知らせなどをスマホアプリのプッシュ通知で受け取れる新サービスをはじめました。高校生、卒業生、地域の方など岩手大学が気になる方はぜひご利用ください！

IWATE UNIVERSITY　登録はこちらから

岩手大学教員によるミニ講義を公開中！

岩手大学教員のわくわくする学問を「夢ナビ」のミニ動画で紹介しています。自分の興味・関心につながる学問への可能性をぜひ広げてください。

編集後記 Editorial Note

馬術部と卓球部の活動紹介がありました。馬術部は馬への心愛が伝わる活動報告であり、「馬のためにアルバイトをする愛情を持っている」という言葉が印象的でした。卓球部はコロナ渦の苦労を乗り越えて、地域の人との繋がりを広める努力があることを知りました。部活動では、競技の勝敗だけではない、動物や地域等を愛する心を学べることを感じました。

Hi こちら 岩手大学
IWATE UNIVERSITY'S OFFICIAL NEWSLETTER
岩手大学広報誌 Vol.54
2024年８月　岩手大学広報室発行
〒020-8550　盛岡市上田三丁目18-8
E-mail:kkoho@iwate-u.ac.jp ／ https://www.iwate-u.ac.jp/
本誌へのご意見・ご感想をお待ちしております。